

第3回国連内陸開発途上国（L L D C）会議 佐々木駐トルクメニスタン大使 ステートメント

この度、内陸開発途上国（L L D C）の開発課題を確認する重要な会議に参加でき嬉しく思います。会議の開催にあたっては、トルクメニスタン政府のご尽力に感謝申し上げます。

国際情勢が不確実性を増す中、エネルギー・食料危機、インフレ、債務危機、人道危機が多くを襲っており、L L D Cをはじめとした脆弱な状況にある人々が特に大きな打撃を受け、安定的な発展を見通すことが困難になっています。

この度の会議にて採択される行動計画は、L L D C特有の制約に基づく開発課題を明らかにし、様々なステークホルダーによる行動目標を定めました。今回の会議での議論を踏まえて、着実に実施されることを期待しています。

日本は、一人ひとりの生命と尊厳を守る人間の安全保障の理念の下、L L D C諸国に寄り添った開発協力を推進することで、ウィーン行動計画の着実な実施に貢献してまいりました。

L L D C諸国は、特にその内陸性に経済的制約を有しており、日本は、これらの課題に対する支援によって、支援対象国及び周辺国の物流円滑化や地域間格差是正、経済活性化に貢献しています。

L L D Cの多くを占めるアフリカにおいては、地域の重点回廊のインフラ整備のほか、これまでに11か国、14か所で内陸国境施設（O S B P）の整備や機能化への支援等を実施するなど、域内統合促進や貿易円滑化に貢献してきました。

また日本は、30年以上にわたるアフリカ開発会議（T I C A D）プロセス等を通じ、アフリカの持続可能な開発を支援してきました。今月横浜で開催するT I C A D 9は、日本の革新的な技術や知見を活

かし、双方の繁栄につながるような課題解決策をアフリカ諸国と共に創り上げる機会にしたいと考えています。

中央アジア・コーカサスについては、現在、域内のみならず、アジアと欧州をつなぐグローバル・サプライチェーンであるカスピ海ルートの開滑化に向け、税関の能力向上等のソフト面での協力を中心に行っています。

東南・東アジア地域においても、空港や道路の整備を通じた支援を行っています。ラオスでは、周辺国との「物理的な連結性」向上に加え、地域の脱炭素化を後押しする「エネルギーの連結性」強化を支援しています。

このように、日本は、LLDC諸国や通過開発途上国、開発パートナーと連携し、ハードとソフト両面からの広域経済圏の形成を通じて、総合的な貿易開滑化に取り組んできており、これからも他国と連携しながら支援を行っていく所存です。

本会議は、LLDC諸国の明るい未来に向けた新たな10年が始まる瞬間であり、日本として、これからもLLDC諸国とともに歩み続ける思いを強くしたところです。

日本は、国際社会との緊密な連携の下、本日ご紹介したLLDC諸国の更なる課題解決のための支援はもちろんのこと、途上国の人々の暮らしを向上させる多岐に亘るODAも総合的に活用し、LLDC諸国の成長と発展に引き続き貢献していきます。LLDC諸国に寄り添った支援を推進し、新たな行動計画の着実な実施に貢献していく所存です。

ご清聴ありがとうございました。